

議 事 録

会議の名称	平成２６年度 第２回座間市子ども・子育て会議
会議日時	平成２６年７月１０日（木） １８：００～２０：００
会議場所	座間市役所５Ｆ－１会議室
委員	大下聖治、渡辺廸子、大塚和光、中村保夫、山本安雄、金子三枝子、鈴木いづみ、大友奉、尾崎幸利、椎野一子、田中敦、小澤ゆり、大木貴子、安藤潔、橋本俊幸
事務局	子育て支援課 電話０４６－２５２－７９６９（直通）
次第	<p>委嘱式</p> <ol style="list-style-type: none"> １ 委嘱状交付 ２ 福祉部長あいさつ <p>子ども・子育て会議</p> <ol style="list-style-type: none"> １ 開会 ２ 議題 <ol style="list-style-type: none"> （１）子ども・子育て関連３法に係る条例改正について （２）座間市子ども・子育て支援事業計画（素案）について ３ その他 ４ 閉会
<p>会議経過</p> <p>委嘱式</p> <ol style="list-style-type: none"> １ 委嘱状交付 新規委員の紹介と委嘱状交付 ２ 福祉部次長（部長代理）あいさつ <p>子ども・子育て会議</p> <ol style="list-style-type: none"> １ 開会 ２ 議題 <ol style="list-style-type: none"> （１）子ども・子育て関連３法に係る条例改正について <p>事務局より別紙</p> <p>「資料１－１ 子ども・子育て支援関連３法に係る放課後児童健全育成事業関係条例（素案）についてのパブリックコメント実施要領」</p> <p>「資料１－２ 子ども・子育て支援関連３法に係る就学前の子どもの教育・保育関係条例（素案）についてのパブリックコメント実施要領」説明</p> <p>【質疑応答】</p> <p>（委員）</p> <p>資料１－２の３ページ目以降は、現行の制度と新しい制度を比べて、何が違うのか良くわかりません。パブリックコメント（以下、「パブコメ」という。）では、どういう人から意見をもらいたいのでしょうか。</p>	

これらの資料を理解して、市の参考になる意見を述べるのでは難しいのではないのでしょうか。

(事務局)

3 ページ目以降は、国から示された全く新しい指針となっています。パブコメでは、特に対象者を定めているわけではなく、興味関心のある人から意見を頂きたいと考えています。

(委員)

パブコメ開始から半月経っていますが、どのくらい意見がきているのでしょうか。

(事務局)

他の案件と勘違いされていると思われる意見が1 件来ていますが、この内容についての意見は子育て支援課、保育課ともに来ていません。

(委員)

皆さん知らないようなので、もう少し周知をした方が良いのかなと思います。

(事務局)

パブコメについては、ホームページと「広報ざま」に掲載しており、パブコメの資料については、各コミュニティセンター、児童ホーム、保育園等に置いています。主な内容としては、児童ホームについては、入所の基準が1 年生から6 年生にまで拡大されたという点と、児童ホームの指導員に基準ができた、ということです。保育園も含めて国の基準をそのまま市の基準としている内容なので、意見は言いにくいのではないかと思います。児童ホームや保育園を通じて、もっと広報を行っていきたいと考えています。

(委員)

幼稚園の父母代表として参加していますが、何を意見して良いのかわかりづらいと思います。児童ホームや保育園に置いてある資料はどのようなものなのか。

(事務局)

この会議の資料と同じものです。コミュニティセンター等にはニーズ調査の報告書なども置いてあります。市のホームページでは新着情報にも出してあって、すぐにアクセスできるようになっています。お知り合いの方にも、ホームページを見てくださいなどと周知して頂ければありがたいと思います。

(委員)

これに限らず、就業前の保護者の意見なども出しても良いのでしょうか。

(事務局)

自由に書いていただいて結構です。

(委員)

資料1－2の3 ページ「(2) 運営に関する基準」に、「(仮称) 座間市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める規則」がありますが、これについてもパブリックコメントを求

めるのでしょうか。求めないのであれば、その違いはどこにあるのですか。

(事務局)

座間市協働まちづくり条例に基づいてパブリックコメントを実施していますが、パブコメの対象が条例となっています。また、規則については、非常に技術的な内容が多くなっていますので、条例で規則に委任すると明記させていただいています。

規則の内容につきましては、国のホームページに掲載しており、また議論の経過についても掲載してあります。内容について、個別に説明することも可能です。

(委員)

保育の必要性についての3つの認定基準と、資料説明の中の確認作業とはどのようなつながりがあるのですか。

(事務局)

具体的なつながりはありません。保育の必要性の認定は、保護者が保育の必要性が認められるかどうかという判断で、確認のほうは事業者に対して基準を満たしているかどうか、という確認行為になります。

(委員)

児童ホームにも、保育園のような就労要件はあるのでしょうか。

(事務局)

月に16日以上、児童ホームの開所時間における3時間以上の就労が条件となっています。

(委員)

12月のパブリックコメントは何に対してのものなのでしょうか。

(事務局)

この子ども・子育て会議で審議して頂く「子ども・子育て支援事業計画」の素案についてのパブリックコメントになります。事業計画は、今後の市の事業計画ですが、条例や規則は、国から基準が示されているものなので別のことになります。

(委員)

条例とか規則に馴染みがないので、説明があつたら良かったと思います。児童ホームの保護者負担金について、座間市だけが18段階に分かれています、これは何か理由があるのでしょうか。

(事務局)

座間市の児童ホームは他の市町村よりも早く始めていたので、負担金が18段階に細かく分かれています。県内の市町村を調べてみたところ、一律のところがほとんどであるため、今回の条例の改正に併せて一律の料金にしたいということで提案させていただいています。

(委員)

児童ホームに待機児童はいるのでしょうか。

(事務局)

児童ホームは学区ごとに設定していますので、定員に余裕のある児童ホームと入れない児童ホームがあります。去年まではそれほどいませんでしたが、今年は30人くらい待機児童が発生している状況です。

(委員)

待機児童がいるような余裕がない状況で、国の基準を当てはめて良いのでしょうか。

(事務局)

児童ホームだけではなく放課後子ども教室などを増やして、待機児童を減らすという方向にもっていきたいと考えていますが、当面は低学年が優先ということになってしまうと思います。

(委員)

では、対象者を6年生まで広げても、定員は変わらないということでしょうか。

(事務局)

徐々に増やす予定にはしていますが、しばらくの間は高学年の方は待機児童になってしまう可能性があります。

(委員)

前回の委員会で、保育園の待機児童が多いのは保育士の不足という説明がありましたが、児童ホームの指導員に資格が必要だということになると、指導員不足で待機児童が増えるということにはならないのでしょうか。

(事務局)

児童ホームの指導員については、現行の指導員は基準をクリアできるような資格要件になっているので、その点については大丈夫と考えています。

(2) 座間市子ども・子育て支援事業計画（素案）について

事務局より別紙

「資料1－2 子ども・子育て支援関連3法に係る就学前の子どもの教育・保育関係条例（素案）についてのパブリックコメント実施要領」

「資料2－1 児童ホーム申込み状況・平成27年度以降推計利用数（概算）」

「資料2－2 認可保育所申込み状況」説明

【質疑応答】

(委員)

資料2－2について、認可保育に関する推計利用数の資料が示されていないのでは会議の意味がないと

思います。

子ども・子育て支援給付事業の「こども園」という事業名は、認定こども園や保育園、幼稚園などの施設名と紛らわしいので使わないでいただきたいと思います。

(委員)

区域について説明してください。

(事務局)

計画の策定にあたって、横浜や川崎のような大きな市はいくつかに分けて計画する必要がありますが、座間市ぐらいの市であれば分ける必要はなくて、児童ホーム等の事業についても座間市全体で計画するという意味で、市内全域という意味で使っています。

(委員)

放課後こども教室を将来的には実施するとのことですが、希望すれば誰でも使えるのでしょうか。

(事務局)

自由に、利用したいお子さんが使えるという形で考えています。

(委員)

放課後こども教室は、小学校の学区ごとに開設されるのでしょうか。

(事務局)

学区ごとに全ての小学校で開設するということを目標にしていますが、財源もありますので、事業内容については、今後検討していくことになります。

(委員)

現行の児童ホームに4年生の入所児童がいるようですが、これはなぜですか。

(事務局)

障害を持っていたり、兄弟が児童ホームに入所しているなどの場合には4年生でも入所可能になっています。

(委員)

放課後こども教室には保護者の負担金はあるのでしょうか。

(事務局)

他市の状況を見ると負担金をとっていないようです。

(委員)

負担金のある児童ホームと無償の放課後こども教室には、どのような違いがあるのでしょうか。

(事務局)

児童ホームは子どもを預かるイメージですが、放課後子ども教室は、放課後の子ども居場所を提供するというイメージです。

(委員)

監督者はつくのですか。

(事務局)

監督者は置く方向です。他市ではボランティアの方が見ているという状況になっていますが、座間市でどのようにするのかはまだこれから検討する予定です。

(委員)

放課後こども教室は、時間的には何時くらいまでとする予定ですか。

(事務局)

学校の施設を使うので、児童ホームよりは短い時間になり 4 時か 5 時ということになる予定です。

(委員)

ざま遊友クラブとの違いを教えてください。ざま遊友クラブと融合するのですか。

(事務局)

ざま遊友クラブは月 1 回とかですが、放課後こども教室はもう少し回数を増やした形になるよう研究していきたいと思っています。

ざま遊友クラブと融合すると決まっているわけではありませんが、ざま遊友クラブを発展させたような形になるのではと思っています。

(委員)

児童ホームは、申し込みがあり、親との面接があり、許可されて入って、時間も長く、おやつも出て、というところで、放課後こども教室は、横浜の「はまっ子ふれあいスクール」のように、来る時間も帰る時間も自由で、お手伝いに来たお兄さんやお姉さんが一緒に遊んでくれる、そういうようなところだとイメージしています。

(事務局)

イメージとしてはそういうもので、放課後の居場所を提供するような仕組みだと考えています。

(委員)

パブリックコメントの周知が不足なのではとの質問へのお答えと、こども園の用語に対する質問へのお答えについて再度お教えてください。

(事務局)

「こども園」との言い方は国が初期に使っていた言い方で、事業名が変わった可能性もあるので確認さ

せてください。パブリックコメントが浸透していないということについては、児童ホームや保育園においてあるところですが、判りやすい表示をしていきたいと思います。

(委員)

座間市子ども・子育て支援事業計画(素案)の中で、延長保育事業が位置づけられていますが、幼稚園でも預かり保育を行っています。これはどのように位置づけられるのでしょうか。

(事務局)

もちろん、今幼稚園でやられていることも含めた計画にする予定です。ここに示されている事業の全てに国からの給付金が出る事業となっています。

(事務局)

幼稚園の長時間預かり保育事業についても国の補助金があり、座間市としても実施する方向で考えています。

(委員)

子ども・子育て支援給付事業がどうなるかを、幼稚園としては注視をしていくつもりです。

(委員)

座間市には小規模保育はどのくらいありますか。

(委員：保育課長)

現在、座間市にはありません。実施事業者がないからです。小規模保育には3歳になった時に行く連携事業者がないと、市としては案内できません。

(委員)

必ずしも連携事業者が必要でしょうか。連携事業者がないというのは、保護者が自分で選べる利点ではないかと思います。

(委員：保育課長)

必ずしも必要ではありませんが、現実問題として、子どもが3歳になった時の行き場を考えると、連携施設のない小規模事業者というのは、保護者のニーズとして不安なのではないかと思います。

(委員)

保護者が、必ずしも小規模保育と連携している保育園を希望しないことも考えられます。連携先が特定されてしまうと行きたくないという保護者もいるのではないのでしょうか。保育園では保育者の人数が足りなくて0歳から2歳までの子どもを受け入れることができないという話もあったので、小規模保育で受け皿を増やしていくという方法もあると思います。保育園から幼稚園に入れたいという保護者もいるかもしれません。一番問題なのは0歳から2歳までなので、もう少し柔軟に受け入れ態勢を検討していただきたいと思います。

(委員)

保育園の現状としては、2歳まで保育園で3歳から幼稚園に行こうというお子さんは皆無です。0歳から保育園に入ったら、そこを卒園するというのが現状で、0～2歳までだけを小規模保育に預けている人はほとんどいらっしゃらないと思います。3歳から幼稚園に預けるというのは、幼稚園が朝6時半から夜8時まで等の長時間保育に関わるというのであれば可能かもしれませんが、現実的には無理だと思います。やはり、連携事業がないというのは保護者の立場からすれば不安だろうと思います。

座間市にも2箇所くらい病後児保育施設がありますが、0歳からは見ない、病児は見ない等の規制が多いので、医者と連携が取れる病児保育、病後児保育の拠点を考えていただきたいと思います。病後児というのは、風邪や水ぼうそう等、一般的に子どもがかかる病気の治りかけで、保育園が薬を預かる状態になった子どものことで、伝染病の場合は病児となり預けられないことになっています。病児を預かれる拠点を作ることがこれからの子育てに関わる上で一番必要なことなのではないかと思います。保育園の場合は、薬を1回だけ預かることができます。

(委員)

幼稚園の場合はできません。

(委員)

子育て支援の仕事をしていると、病児・病後児の依頼が本当に多くて、とても必要性を感じていますのでぜひお願いしたいと思います。

ニーズ調査で、週に3回、一日3～4時間くらいのパートの希望が多かったですが、そうなると保育園の受け入れ基準から外れ、幼稚園に預けることになると思います。その場合の夏休み等の受け皿として、小規模保育や一時預かり保育が必要だと思うのですが、地域によっては一時保育のない地域もありますので、各地域に整備して欲しいと思います。

(事務局)

一時保育のニーズはあると思っているので、ご意見として承らせていただきます。

3 その他

事務局よりスケジュールについて説明

【質疑応答】

(委員)

平成26年11月に認定こども園・新年度用認定申請受付開始とありますが、現行の幼稚園の募集時期が10月15日要綱配布、11月1日受付です。これは、神奈川県内の幼稚園の申し合わせ事項ですので、もし認定こども園ができたとしても、これを変えられては困るので、守っていただきたいと思います。

(委員)

この会議宛に要望書が出ていると聞きましたが、その取扱いはどうなっているのですか。どのような形で反映させるのですか。

(事務局)

課で受付し、パブリックコメントと同様に、反映できるところは反映していくように考えており、1件1件についてお答えすることは考えていません。

(委員)

これは委員に対する要望であり、市が答えるべき問題ではないと思います。

(委員)

要望は会長宛に出されているはずなので、委員に配布して、委員それぞれが判断すれば良いのではないのでしょうか。

(事務局)

今後は、会長宛に提出されたものは会長にお見せし、判断していただきたいと思います。

(委員)

子ども・子育て事業計画のパブリックコメントというのは、条例と同じで、出来上がったものについて実施するのでしょうか。

(事務局)

事業計画については、こちらの子育て会議で審議して頂き、ある程度まとまったものについてパブリックコメントを実施する予定になっています。

(委員)

パブリックコメントの内容は随時反映されるのでしょうか。それとも後でまとめて反映されるのでしょうか。

(事務局)

期間が経過した後、出てきたものを整理して反映させていただく形になります。

(委員)

パブリックコメントに対しては、市の回答はあるのでしょうか。

(事務局)

意見に対しての市の考えをホームページで公表する予定です。

4 閉会

次回は11月6日(木) 18:00～